

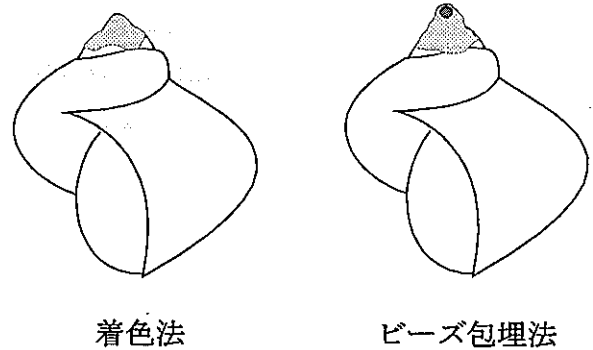
3. 標識試験

(1) 目的

様々な場所での放流や継続した放流での効果を解析するためには、標識放流は最も有効な方法である。そこで、長期間脱落しない標識を開発するための標識試験を実施した。

(2) 方法

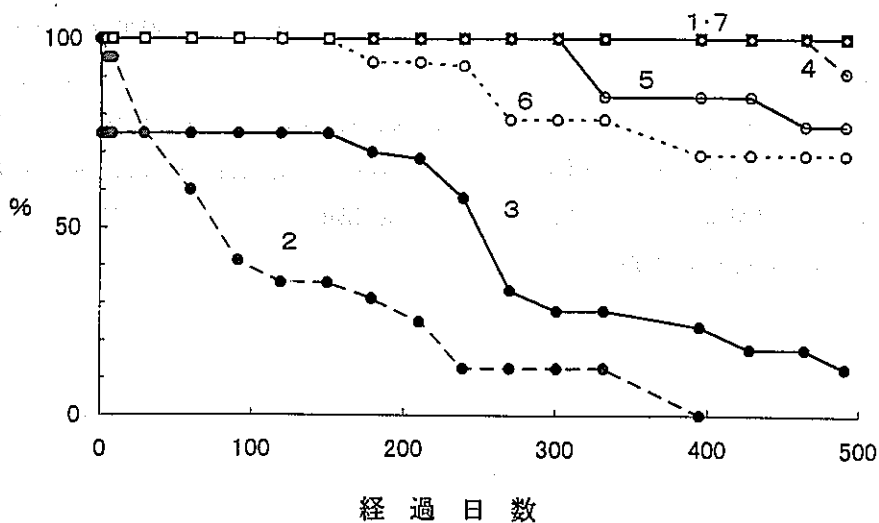
サザエ類で使用されている着色法²⁾、³⁾と、ビーズを合成樹脂等で包埋するビーズ包埋法について試験した(図Ⅲ-6)。着色法は殻頂部を着色する方法で、着色剤として色素の入ったシアノアクリレート系接着剤(商品名:アロンアルファ)とスチレン系合成樹脂(FRP用樹脂、商品名:ポリライト)に塗料を混合したものをを用いた。ビーズ包埋法では、ビーズをエポキシ系接着剤、粘性の高いシアノアクリレート系接着剤(アロンアルファ・ゼリー状)あるいはポリライトで頂部に包埋した。ビーズは、高さ(穴のあいた方向)1.9mm、径3mmのもの(赤ビーズ:大型)と高さ1.4mm、径2.2mmのもの(黄ビーズ:小型)を用いた(表Ⅲ-6)。



図Ⅲ-6. ヤコウガイの標識方法

表Ⅲ-6. ヤコウガイの標識試験に使用した標識の概要

標識番号	1	2		3	4		5	6	7
標識材料	赤アロンアルファ	エポキシ系接着剤			アロンアルファ・ゼリー状			ポリライト	黄ポリライト
方法	着色法	赤ビーズ	黄ビーズ	黄ビーズ	赤ビーズ	黄ビーズ	黄ビーズ	黄ビーズ	着色法
作業効率(個/人・時)	100.8	60	60	60	60	60	121.0	244.6	



図Ⅲ-7. ヤコウガイの標識の残存率